



No.41

2019.12.

「日の出の森・支える会」は、東京都西多摩郡日の出町にある巨大な処分場が引き起こした環境汚染から、自分たちの生命・健康を守るとともに、ごみ問題の真の解決を願って立ち上がった地元住民運動を支援することを目的として、1994年に発足しました。

ごみ問題も原発問題も主権者にブーメラン

濱田光一(たまあじさいの会)

先日国際ビジネスの勉強で香港の大学に留学していた学生が、学内まで警察が踏み込むようになり、危険を感じて緊急帰国したニュースを観た。そこで彼が話したことは、学生に普通選挙権が無い国から帰って、「選挙が出来ること、警察が学生に暴力をはたらかないことが普通だと思っていた。」だった。安保闘争や沖縄の警察機動隊の現状も知らずに育った若者が、香港の激しい民主化闘争の中にいて初めて気が付いたという。

何と今年11月の青梅市長選で、正にそれだ！と思い知らされることに直面した。

初めて自覚的主権者市民連合の一員として選挙戦を闘ったが、開発利権勢力で固めた保守市政が長期化し、様々な政策が子どもや弱者、市民にとって、住みにくい町になっていく状況でも、支援した市政改革派の統一候補者が僅差で負けた。

市の選挙史上最低投票率の結果である。

不満があっても現状を黙って受け入れる過半数の主権者、生まれたときから普通選挙権が自然に与えられているそれが、どれほどの強権力か、使うこともなく。

しかしこれは現在日本中の、町々で見られる日本の縮図に過ぎない。

この国の主権者たる国民の全てに与えられた権利を60%前後が棄てている。

その結果、今や立法府が機能せず、三権分立の構造が崩壊し、戦争も武器も放棄した憲法は穴だらけにされ、今年戦後74年、初めての武器マーケットが大規模に堂々と開催されている現実。

私たちは子どもの時から、世界に類の無い平和憲法の下で、国家の主権者として生まれたが、その意味を、家庭や学校で教えられ、教えてきたのだろうか。

と偉そうなことは言えないな！

自分たちの日の出闘争も、かつて裁判を弁護士に預け、訴訟人側傍聴人ゼロの状態で梶山さんに怒られ、あたふた馳せ参じた「いわゆる主権者」だった。

選挙の度に政党間利権争いで不正義の行政を許してきた、主権者を忘れた議員たちに気付き、我々の選挙として行動して本当に身に染みて分かった。

主権者が、自覚すれば、日の出町のごみ問題も、原発も、戦争も、腐敗行政、司法問題の解決も希望も見えて来る。

それを怠るとブーメランのよう不幸が無い戻ってくる。

【連絡先】〒190-0011 東京都立川市高松町2-19-1 T/F042-523-7297 / 070-5360-1201 (島崎携帯)

ホームページ : <http://hinodenomori.main.jp>